

所属	リハビリテーション学研究科 リハビリテーション学専攻 修士課程	修了年度	2018年度
氏名	入沢 健	指導教員 (主査)	會田 玉美

論文題目	集団運動継続プログラムに通うパーキンソン病患者における ヘルスリテラシーと健康関連 Quality of Life の関連
------	--

### 本文概要

#### 【目的】

本研究の目的はパーキンソン病（以下，PD）患者の Quality of Life（以下，QOL）向上のためにヘルスリテラシーと健康関連 QOL との関連を明らかにすることである。

#### 【方法】

集団運動継続プログラムに通う PD 患者 34 名を対象に，基本情報（年齢，性別，配偶者の有無，罹患年数，既往歴の有無，参加回数，最終学歴，重症度（H&Y））及び，ヘルスリテラシー評価を Functional, Communicative, and Critical Health Literacy（以下，FCCHL）. そして，QOL 評価を Parkinson's disease questionnaire-39（以下，PDQ-39）を用いて調査した．FCCHL は 3 下位尺度で構成されており，機能的ヘルスリテラシーは，日常生活場面で役立つ読み書きの能力．伝達的ヘルスリテラシーは，情報を入手することや様々な形のコミュニケーションパターンに適応して，得られた知識をもとに行動できる能力．批判的ヘルスリテラシーは，批判的に情報を分析することで身の回りで起きる出来事をコントロールできる能力である．また，PDQ-39 は PD に特異的な 8 下位尺度（運動能，日常生活活動，情緒安定性，烙印，社会的支援，認知，コミュニケーション，身体的不具合）から構成されており，それぞれの総得点と各下位得点を算出した．分析は，まず FCCHL 及び PDQ-39 と基本情報との関連を単変量解析にて検討した．次に FCCHL と PDQ-39 の相関を検討し相関のある組み合わせに対し，PDQ-39 の得点と FCCHL の得点，基本情報による多変量解析を行った．

#### 【結果】

分析の結果，罹患年数と伝達的ヘルスリテラシー，既往歴と PDQ-39 総得点，烙印，認知，コミュニケーション，重症度と日常生活活動，身体的不具合に有意な関連がみられた．また，機能的ヘルスリテラシーと運動能，批判的ヘルスリテラシーと身体的不具合に有意な相関が認められた．そして，運動能と機能的ヘルスリテラシーについては重回帰分析にて解析した結果，運動能は，機能的ヘルスリテラシーの影響を有意に受けており，次いで年齢，重症度（H&Y）の影響を受けていた．予測精度は決定係数  $R^2=0.12$  であった．また，身体的不具合と批判的ヘルスリテラシーの多項ロジスティック回帰分析の結果では判別の中率は 67.6%であった．

#### 【考察】

伝達的ヘルスリテラシーの向上は多彩な症状のリスクを軽減する可能性が考察された．機能的ヘルスリテラシーの向上は運動症状や生活課題の解決能力を向上させると考えられた．そして，批判的ヘルスリテラシーの向上は 身体的不具合の要因を知る能力につながると考えられた．

#### 【結論】

PD 患者の症状は多彩であり，罹患年数や重症度，既往歴の影響により，障害像を複雑にし，疾患理解や管理に必要な情報も複雑化していく．今回の研究結果より，PD の QOL に影響している複雑な要因に対し，ヘルスリテラシーを向上させることで疾患理解を促し，運動機能や生活能力をコントロールするための能力を向上させる可能性が示唆された．